

2024 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

国名 [パプアニューギニア セントラル州 ソゲリ地区]

学校名 [Sogeri Primary School] 担当教諭名 [内山 翔太] (4年 A・B組 90名)

日本学校名 [横浜市立西寺尾第二小学校] 担当教諭名 [橋村 理沙]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	理科	Soil for Human Beings	6
		Water on the Earth	10
		Sea Creatures and Changing Environments	9
		Marine Plastic Pollution and Our lives	9

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	Save the Sea, Save the Future
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	日本とパプアニューギニアの深い友好関係、豊かな海をこの先の未来も守っていききたいという想いを込めて壁画を作成しました。



■今回の取組の成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・これまでソゲリ小学校にはゴミ箱は設置されていませんでしたが、本プロジェクトをきっかけに3つのゴミ箱(自然ゴミ用、空き缶用、プラスチックゴミ用)が設置され、ゴミの分別が行われるようになりました。 ・ソゲリ小学校はパソコン室、十分な蔵書がなく、調べ学習をしたことがありませんでした。しかし現在は、近隣のソゲリ高校と連携し、高校のパソコン室や図書室を利用して調べ学習を行えるようになりました。 ・空き缶やペットボトルなどの廃材を活用したアート作品の制作や環境保全を呼びかける啓発ポスターの制作に取り組みました。 ・環境教育の一環としてフィールドツアーを実施し、首都ポートモレスビーのバルニ処分場、下水処理施設、リサイクルセンター、動物園(Adventure Park)、およびバリラタ国立公園訪問をしました。 ・ソゲリおよびエラビーチで清掃活動を行いました。 ・SDGsをテーマに3回交流授業を実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・停電、断水、電波障害、さらにラスカル(不良少年)による教室の器物破損などの影響で、学校が臨時閉鎖となることがありました。そのため壁画制作は当初の計画通りには進まず、完成・発送が2週間遅れてしまいました。 ・調べ学習(STEP1)および成果の共有(STEP2)には時間を要し、6月から11月ごろまでかかりました。その結果、メッセージの統合を行う段階(STEP3)では、伝えたい内容を十分に練る時間が確保できませんでした。 ・交流授業では双方の児童が英語で自分たちの活動について発表しましたが、内容がうまく伝わらない場面も多く、JICA海外協力隊員による通訳の支援が必要となりました。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> ・校庭や川へのゴミのポイ捨てをする児童が減少し、ゴミを分別してゴミ箱に捨てる意識が徐々に根付いてきました。 ・他学年の児童がゴミのポイ捨てしている様子を見かけた際に、「それは土壌汚染や水質汚染につながるから、やめた方がいいよ」と自ら声をかける児童も見られるようになりました。環境への理解が行動に結びついている様子が見えます。 ・ポイ捨てされた空き缶やペットボトルを活用しアート作品を制作する活動も行われています。身近な素材を使って制作することで資源の大切さを学ぶきっかけにもなっています。 ・「JQA地球環境世界児童画コンテスト」などの応募を通じて、多くの児童が環境保全への思いを絵に表現するようになりました。教員が特に声をかけずとも、休み時間に自主的に環境をテーマにした絵を書く児童も増えました。 ・日本との交流を通して、日本に対して興味や親しみを覚える児童が増えました。「いつか日本へ行ってみたい」「オンラインで交流した日本の子どもたちに会ってみたい」と話す児童も多く、国際理解教育の成果が表れています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・焼却施設やリサイクルセンターの未整備、ゴミ回収の仕組みがないといった、途上国と先進国のインフラの違いを知り、「やむを得ず環境汚染が起きてしまう」という実情を理解することができました。その中で、限られた環境でも環境教育を継続していくことの大切さを学びました。(JICA海外協力隊員) ・またJICA海外協力隊員による出前講座を実施することで、日本の児童が開発途上国の現状や日本とのつながり、さらには国際協力の意義やその必要性について理解を深めることができることが分かりました。講座を通じて、児童一人ひとりが自分にできることを考え、自発的に行動するきっかけを得ることができ、その機会の重要性を改めて実感しております。(JICA海外協力隊員) ・アートマイルの取組をきっかけに、図工の授業では空き缶やペットボトルなどの廃材を活用したアート制作を行うようになりました。(現地教師) ・学校周辺や海岸の清掃活動に、年に2回程度、学年全体で取り組むようになりました。地域の環境を守る意識が育まれています。(現地教師) ・年に1回環境教育の一環としてフィールドツアーを実施するようになり、実体験を通じた学びの機会が定着しつつあります。(現地教師) ・アートマイル国際協働学習プロジェクトを通じて、児童たちが大きく成長する様子を実感しており、今後もこの学習を継続したいという思いを強く抱くようになりました。(現地教師)

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
調べ学習 テーマ学習	5月 6月	<ul style="list-style-type: none"> ・Soil for Human Beings ・Water on the Earth ・紙芝居「ポイポイとゴミおばけ」 ・ゴミ箱の設置とゴミの分別 ・ソグリ高校で環境問題について調べ学習 ・空き缶やペットボトルなどの廃材を活用したアート作品の制作や環境保全を呼びかける啓発ポスターの制作に 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、土壌や川が汚れると作物が育たなくなったり、魚が住めなくなったりすることを知り、「ごみを捨てる場所を間違えると自然が壊れるんだね」といった感想が多く聞かれました。また、他の児童がポイ捨てをしているのを見かけた際に、「それは Soil pollution や Water pollution になるからダメだよ」と注意する姿も見られ、学びが日常の行動に結びついている様子が見られました。 ・最初こそ分別になれず迷う様子も見られましたが、活動を通してごみの種類や分別の意義について理解を深め、次第に自分から積極的に分別する姿が見られるようになりました。分別のルールを守ることの大切さや、自分たちの行動が環境に与える影響について考えるきっかけとなりました。 ・紙芝居を通じてゴミのポイ捨てが自然 	理科 17

			<p>環境にどのような悪影響を及ぼすのかを分かりやすく学ぶことができ、児童たちからは「ポイポイお化けに出てこれられないように気をつける!」といった声も聞かれました。楽しみながら学べる教材として、印象に残る学習となりました。</p> <p>・廃材が新しい形に生まれ変わることに興味をもち、楽しみながら創作に取り組んでいました。制作を通して、身のまわりにある資源の大切さやリサイクルの意義について学びを深めることができました。</p>	
共有 相手と意見交換	7月 ～ 11月	<ul style="list-style-type: none"> ・第一回交流授業(自己・学校紹介) ・ソゲリ地区での清掃活動 ・Sea Creatures and Changing Environments ・Marine Plastic Pollution and Our lives ・環境教育フィールドツアー ・第二回交流授業(学んだ環境問題について発表) ・JICA オンライン出前講座(途上国と先進国のインフラの違いについて説明) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの知らなかったことや新しい発見に目を輝かせ「日本の学校との違いに驚いた!」「もっと、日本のことを知りたい、いつか日本へ行ってみたい」という声が多く上がりました、 ・清掃活動で価値のあるゴミを分別する作業を通じてリサイクルの重要性を学びました。 ・児童たちはプラスチックゴミが海の生物にとって致命的な影響を与えることを学び特に海の生物がプラスチックゴミを餌と間違えて食べてしまい、その結果死んでしまうことがあるという事実強く心が動かされました。 ・環境保全の大切さを学ぶフィールドツアーを通じて「ゴミをポイ捨てせず、家族や友達にも環境を大切にすることを広めたい」といった感想が聞かれました。 	理科 25
融合 メッセージ作成	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・壁画に込めるメッセージ作成 	<p>・これまでの活動を通して「日本とパプアニューギニアの海はつながっている」ということに気づいた児童からは、「これからの未来も、きれいな海を守り続けたい」「日本とパプアニューギニアの絆を表現したい」といった意見が出されました。国境を越えて自然環境を守る意識や、両国のつながりへの理解が深まっていることがうかがえます。</p>	理科
創造 壁画制作	2月	<ul style="list-style-type: none"> ・壁画制作 	<p>・壁画制作においては、児童たちがパプアニューギニアの国旗をはじめ、イルカ、クマノミ、タツノオトシゴ、サメ、タコ、ウミガメ、イソギンチャクなど多種多様な海洋生物や、極楽鳥、ヤシの木、ダブルブル火山など、国や自然を象徴するモチーフを描きました。</p> <p>制作後には、「貴重な機会をありがとう」「日本の壁画もとてもきれいで、大好きです」「自分たちの思いを壁画に込めることができ誇りに思います」といった声が多く寄せられ、児童たちにとって大きな達成感と国際的なつながりを感じる機会となりました。</p>	図工

<p>評価 振り返り 自己評価</p>	<p>3月</p>		<p>本プロジェクトを通して、児童たちは環境問題と国際理解の双方に対して、関心と理解を深めることができました。</p> <p>環境学習の一環として行った授業や紙芝居を通じて、児童たちは「土壌汚染」や「水質汚染」が作物や生態系に及ぼす影響を学び、ごみの分別や適切な廃棄の重要性に気づくことができました。実際に、「ごみを捨てる場所を間違えると自然が壊れるんだね」といった感想が聞かれ、学習内容が児童の意識にしっかりと根付いている様子がうかがえました。</p> <p>校内へのごみ箱設置と分別活動に取り組んだ当初は戸惑いも見られましたが、活動を重ねる中で、ごみの種類や分別の意義について理解が進み、自発的にごみを分けて捨てる行動が定着しつつあります。また、清掃活動やリサイクル体験を通じて、資源の循環利用や再利用の大切さも体感的に学ぶことができました。</p> <p>特に、海洋プラスチックごみの問題に関する学習では、プラスチックを誤って食べた海の生き物が命を落とすという事実に対し、多くの児童が強い関心を示し、環境保全への意識が一層高まりました。「家族や友だちにも伝えたい」「ゴミをポイ捨てしないようにしたい」といった声が挙がるなど、学びが実生活に結びついていることが確認されました。</p> <p>また、日本との交流を通じて、児童たちは文化や教育環境の違いに驚きや興味を抱き、「もっと日本のことを知りたい」「いつか日本へ行ってみたい」と話す児童も多く見られました。活動を重ねる中で、「日本とパプアニューギニアの海はつながっている」「きれいな海を未来に残したい」といった国際的な視点や地球規模で環境を考える姿勢が育まれてきています。</p> <p>壁画制作では、パプアニューギニアの自然や文化をテーマに、海洋生物や国旗、火山、極楽鳥などを描き、自分たちの思いを込めた作品づくりに取り組みました。活動後には「自分たちの思いを壁画に込めることができて誇りに思う」「日本の壁画もとてもきれいで、大好きです」といった感想が寄せられ、児童にとって</p>	<p>理科</p>
-----------------------------	-----------	--	--	-----------

			<p>大きな達成感と、国際的なつながりを実感する貴重な機会となりました。</p> <p>これらの活動を通して、児童たちは単なる知識の習得にとどまらず、環境を守ることの大切さ、自分の行動が社会や自然に与える影響、そして他国とのつながりの意義を、実感をもって学ぶことができました。今後もこうした学びが継続的に深まるよう、学校全体で取組を進めてまいります。</p>	
--	--	--	---	--

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化を理解する力	5	日本との交流活動や壁画共同制作を通して、児童たちは異なる文化・生活様式への興味や関心を深めることができました。「日本の学校との違いに驚いた」「もっと日本のことを知りたい」といった声が多数挙がり、他国の文化に対する理解や尊重の姿勢が育まれました。また、「日本とパプアニューギニアの海はつながっている」という気づきから、国境を越えた連帯感や地球市民としての意識も芽生えました。
主体的に考え行動する力	5	ごみの分別や清掃活動、フィールドツアーなどを通じて、児童たちは自ら考え、行動に移す力を高めました。「ごみの捨て方を間違えると自然が壊れる」という学びをきっかけに、自主的に分別に取り組んだり、ポイ捨てを注意する姿が見られたりと、行動の変容が実際に確認されています。フィールドワークの後には「自分の家族や友達にも伝えたい」といった声もあり、学びが学校外にも広がっています。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	5	授業や紙芝居「ポイポイとゴミお化け」などを通して、児童たちは環境問題の原因と結果を論理的に考える力を養いました。たとえば、「プラスチックごみを魚が食べて死んでしまう」「土や川が汚れると作物が育たない」という事実に触れたことで、自らの行動が自然環境に与える影響について客観的に考える視点が育ちました。このような因果関係の理解は、環境問題を自分ごととして捉えるきっかけとなりました。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	5	アートマイル国際協働学習を通じて、日本の児童との壁画づくりを共同で行い、国境を越えた協働の経験を積むことができました。言語や文化の違いを超えてメッセージを伝え合い、一つの作品を仕上げる過程は、児童にとって大変貴重な学びの機会となりました。日本の児童とのオンライン交流では、「伝えたいことがうまく伝わらないもどかしさ」と同時に、「もっと話したい、会ってみたい」という前向きな気持ちが生まれ、多文化理解と対話力が深まりました。
想いを表現する力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	壁画制作や啓発ポスター作成などの創作活動を通じて、児童たちは自分の想いや願いを表現する力を伸ばしました。パプアニューギニアの自然や文化、守りたい海の未来への想いを、イルカ、クマノミ、国旗、火山などのモチーフに込めて描き出すことで、自分の意見や感情を視覚的に伝える経験をえました。制作後には「自分の思いを壁画に込められて誇りに思う」といった感想も多く、作品を通じて他者と心を通わせる力が育まれていることがうかがえました。